

平成 26 年 7 月 31 日 発行
公益財団法人
中国四国酪農大学校
電話 (0867) 66-3651
FAX (0867) 66-3652
E-mail info@rakudai.ac.jp
<http://www.rakudai.ac.jp>

学 園

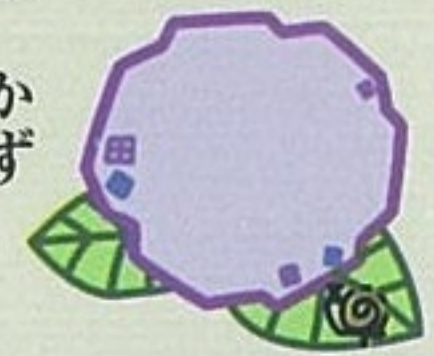
だ よ り



第 50 期生 入学式

巻頭の言葉

校長 山田 義和



いま、蒜山は初夏の様相を呈し、一年の中で最も多くの観光客で賑わう季節となりました。当大
学校も一番草の収穫が終
わり、新たに入学した一
年生も牧場実習の作業に
も慣れ、そろそろ夏休み
が気になり出しています。
今年度の学校行事です
が、4月9日に第50期生
25名の入学式が、大勢の
ご来賓のもと、盛大に挙
行されました。昨年とは
異なり穏やかな気候のな
か、滞りなく式典が終了
しました。今年も新入生

は北は東京都から南は沖
縄県まで広範囲にわた
り、大きな夢と希望を抱
いて入学してくれました。

2年生は、例年どおり
校外研修が始まり、全国
各地で即戦力として活躍
できるよう研修中であり
ます。

いま酪農情勢は、長期
に及ぶ世界的な経済不況
による牛乳・乳製品の消
費減退、高度経済成長下
にある中国との競合によ
る石油製品や飼料原料価
格の高騰、後継者不足に
よる高齢化並びに先行き
不透明な環太平洋パート
ナーシップ協定(TPP)
の問題など非常に厳しい
状況が続いています。
このような状況の中で

すが当大で学校では明るい
話題があります。第1に
共進会で優秀な成績を収
めたことです。ホルスタ
インの部では10ヶ月以上
13ヶ月未満の未經産牛の
部において蒜山地区乳牛
共進会でジュニアチャン
ピオンを、岡山県畜産共
進会で優等賞首席を獲得
し、3才未満の未經産牛
の部においては蒜山地区
乳牛共進会でグランドチ
ャンピオンを、岡山県畜
産共進会で優等賞首席を
獲得するという快挙を達
成しました。これは職員
と学生の努力の賜である
と思っております。第2に
国が推奨している農場H
A C C P制度に専修学校
として全国に先駆けて取
り組み、3月28日に推進
農場に指定されたことで
す。農場H A C C Pは、
徹底した衛生管理による
安全な畜産物の生産を第
三者機関が認証する制度
で、今後は認証取得のた

め、職員一丸となって取
り組む所存です。第3に
全国農業大学校等プロジ
ェクト発表会で特別賞と
して、日本農業新聞賞の
獲得、全農「学生の夢」
コンクールで優秀賞と佳
作を獲得するという優秀
な成績をあげたことです。

学生たちは日々、学業
や実習に励んでおり頼も
しく感じております。

本校は、昨年から全て
の構成県（中国四国各県
及び兵庫県）から講師の
派遣支援を実施していた
べくこととなり、西日本
唯一の酪農の専門技術者
教育機関としての誇りを
もって経営基盤の強化を
図りながら健全な運営に
努めていきますので、引
き続きご支援とご協力を
よろしく願います。

今年、老朽化が著し
い学生寮の新設を行うこ
ととしていきます。学生の
負担を軽減するため、
長尾同窓会長と相談し卒

業生の皆様の善意の寄付
をお願いすることとなり
ました。厳しい社会情勢
のなか、誠に心苦しいの
ですが、明日の酪農を担
う学生のために、是非ご
協力をよろしく願いま
す。

結びに、卒業生の皆様
が頑張っていたいただい
る姿が学生の励みになり
ます。健康に留意され引
き続き頑張ってください
。また、学校を訪問し
ていただき、学生や職員
に声をかけてください。
お待ちしております。





卒業生 酪大を卒業して

第四十六期生

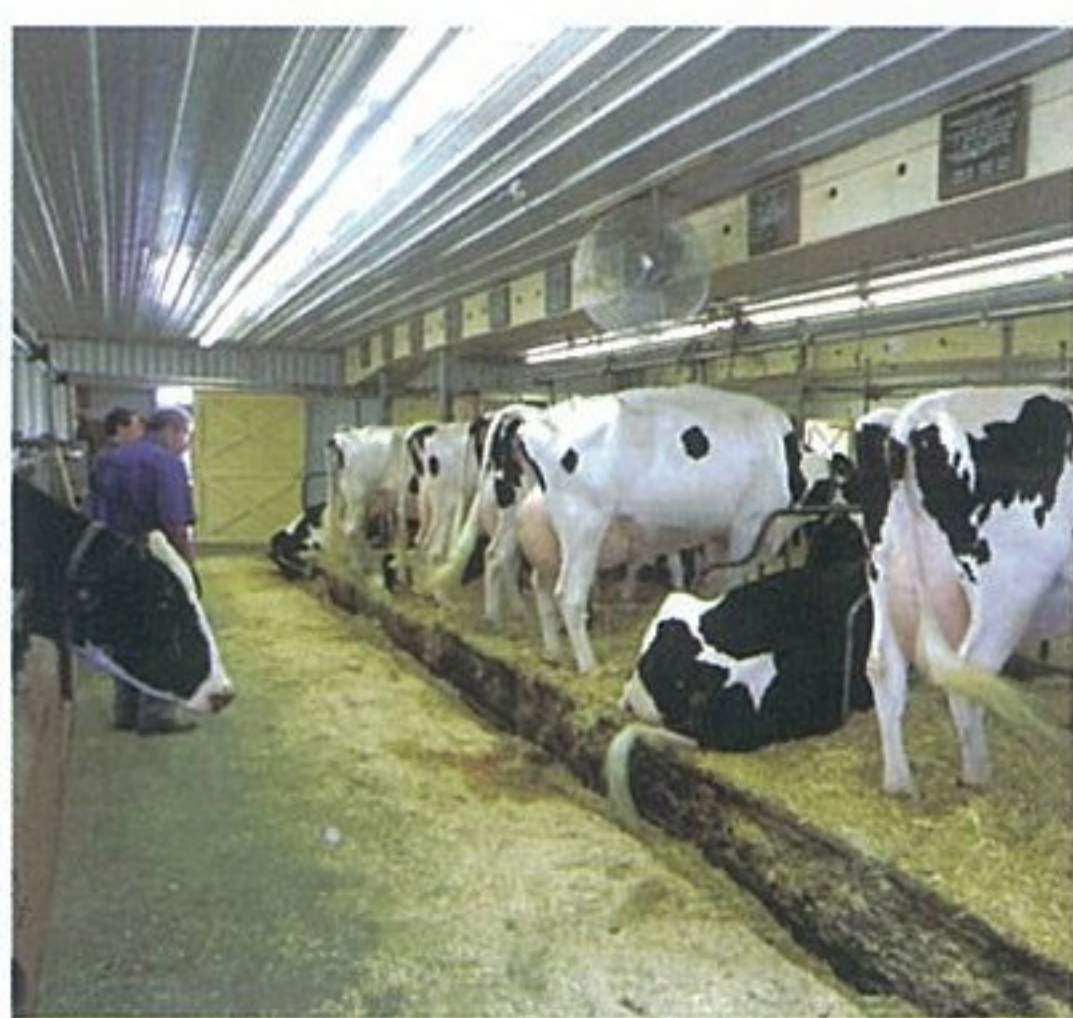
富 永 貴 之

私は平成24年3月に酪大を卒業後、カナダのオンタリオ州トロントから車で約1時間半の所に位置するヨークという町にあるQuality Holstein牧場で一年間研修生として働いていました。

カナダの牧場といえば、とても広く牧草地がどこまでも広がっている、そんなイメージがありました。しかし実際に行ってみると、放牧地をほとんど隣にはスーパーで扱う商品の配送センターがあり、近くにも民家がたくさんあり、とてもびっくりしました。

この牧場は、クオリティーシードという種子メーカーのポールド・エクスタイン氏がオーナーを務めており、もともとは、オーナーが種子を販売しながら様々な牧場を回り、自分が気に入った牛を買い集めていったことが始まりだそうです。現在は総面積が約40haで搾

乳牛頭数70頭、乾乳牛35頭、育成牛40頭、レシピエントが5〜10頭飼育されていて、私を含め6人の従業員で管理を行っていました。従業員の中にはスペインやメキシコから来ている人もいて、非常に国際色豊かな職場でした。



牛舎の構造は繋ぎのレギュラータイストールの対頭式で、さらに独房が12個ほどありました。牛床を掃除する時は、一度牛を外に出し、牛床の汚れた部分を捨て、後ろの足元にオガをまき、前の方に土手ができるようにストローを広げます。研修で最初に大変だったのが、牛床掃除のあとの牛入れです。なかなか牛の名前が覚えられず、さらにそれぞれの牛の場所まで覚えるとなると、とても苦労しました。

カウハッチは46個あり、1区画に5〜6頭入れています。牛舎の構造上とても暑いいため、暑熱対策として全頭毛刈りを行ってしま

た。

牛舎内の糞は、バンクリナーと地下圧送ポンプで外へ出され、糞尿は堆肥化せずにそのまま草地へマニユアスでまかれます。この牧場では購入飼料が70%、自給飼料は30%で、主にチモシーのロールが多いです。日本では1個ずつラッピングすることが多いですが、ここではロールをたくさん繋げてラップしていて、まるでソーセージを作っているみたいでした。やはり、牧草作りに関しては規模の大きさにとっても驚きました。



そして、なんとといってもロイヤルシヨウを見に行ったりときはあまりにもすご過ぎて興奮しっぱなしでした。このすごさは、実際に見た人にしか分からないと思います。とても広い会場で牛の洗い場などもきちんと完備しており、牛も快適に過ごせていました。

このような貴重な体験ができたカナダ研修から帰国して約一年

が経ち、現在は山口県酪農農業協同組合で授精師として働いています。ゆくゆくは自分で乳肉複合経営の牧場を始めたいと考えていますが、その際に広い視野を持った牛飼いになれるよう、今のうちにいろいろな経験を積んでいきたいと思っています。



在校生 酪大に入学して

第五十期生

井 崎 きりん

私は大阪出身の非農家で、高校も普通科の学校でした。そんな私が酪農をしたと思ったのは、小学生の時に初めて牧場に行つて牛を見た時からです。牛を見る前は「大きいし怖いな」と思っていた

が、実際に触れ合ってみると人懐っこいし可愛かったです。牛に興味を持ってからはいろいろな観光牧場を訪れ、牛に触れ合ったり従業員の方にお話をうかがったりしました。専門知識はもちろん、体力や精神力など様々な要素が必要だと聞き、自分で思っていたより大変な職業だと知りました。毎日飲んでる牛乳も、それ

では生産者のことなど考えたこともありませんでしたが、牧場の方々の話を聞くうちに、牛から搾られた牛乳がどうやって私たち消費者のもとに届くのかなど、牛のことだけでなく酪農全般に興味湧き、もっと多くのことを知りた

いと思うようになりました。そこで、酪農の専門知識を学ぶために酪農大学校に入学しました。入学してまだ3カ月ですが、いろいろなことを教えてもらい、経験しました。初めてのことで「しんどいな」と思うこともありますが、牛の体調の変化や発情などが最近ちょっと分かるようになってきたこともあり、牛について理解を深めることがすごく楽しい嬉し

いです。将来は観光牧場などで働き、訪れた人や子供たちに牛や酪農の魅力を伝えていきたいと思っています。そのためにも2年間精一杯頑張ります！



盛夏の候、同窓会の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

第一牧場は今年度から、関場長、長綱主任、新宮技師、樋口技師に、県から出向の金谷技師を加え、5人で担当しております。

昨年は、新宮技師が高校時代から乳牛共進会に熱心に取り組んできた経験を活かし、ホルスタインクラブを立ち上げました。秋の共進会シーズンをにらんで学生と共にトレーニングに打ち込んだ結果、県共進会では、本校から出品した未經産牛がジュニアチャンピオンを、また経産牛がクラスチャンピオンを獲得しました。また、今春のおからくスプリングショウでは未經産でジュニアチャンピオンに、中国地区ブラック&ホワイトショウでは未經産でクラスチャンピオンの榮譽に輝きました。年々改良の成果が上がって

きています。この調子で来年の北海道全共に向け、より一層の牛づくりに力を入れていく所存です。

第一牧場では、旧搾乳牛舎を改造して分娩牛舎を造りました。この改造には廃業した公共育成牧場から柵や換気扇等の提供をいただき、職員と学生が鉄骨の切断機や溶接機を駆使して手作りで仕上げました。最も管理に気を遣わなければならない分娩牛にとって非常に快適な牛舎となりました。これにより分娩前後の移行がスムーズになり、乳量アップにつながりました。

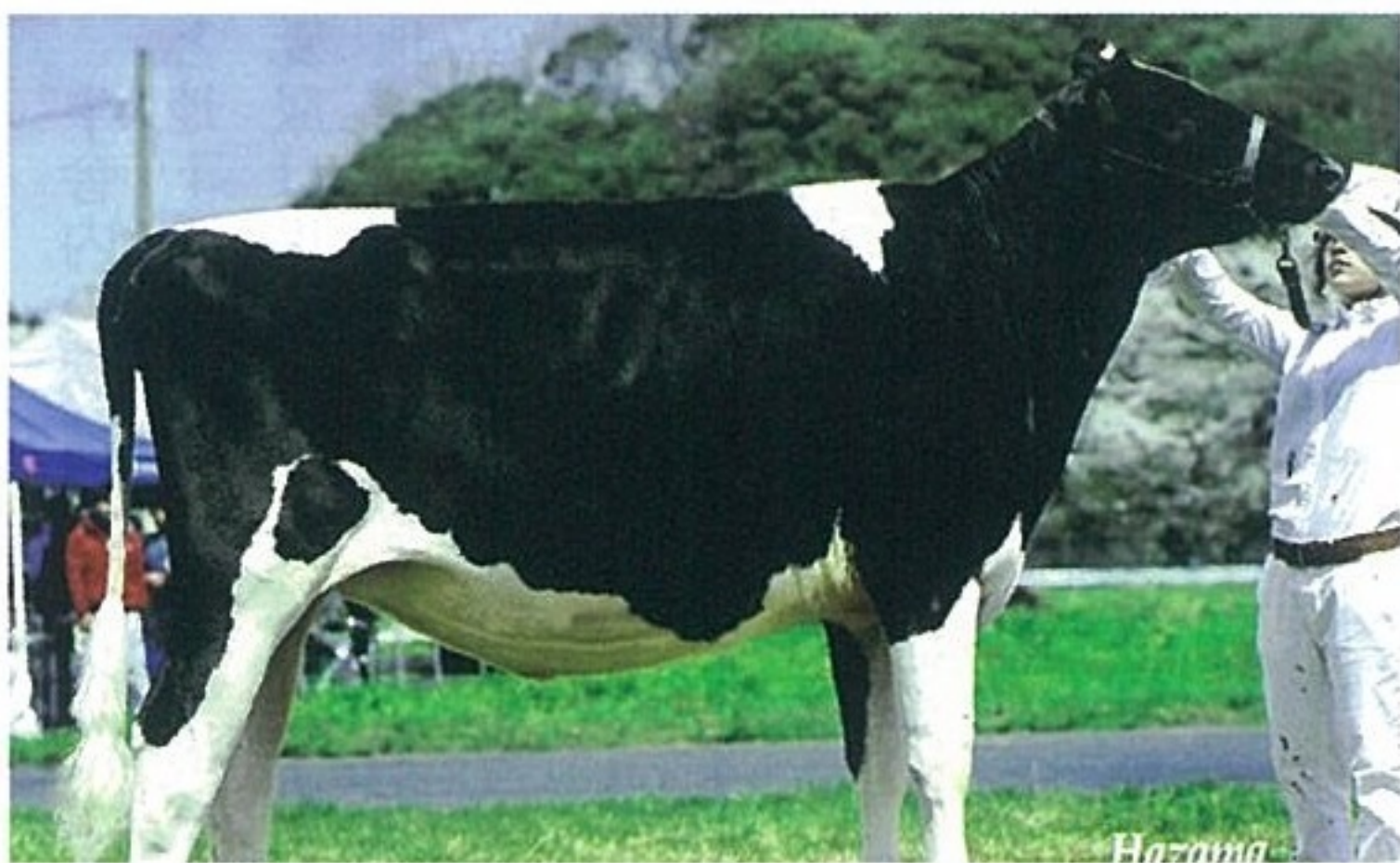
また、昨年の春から秋にかけて天候に恵まれ、デントコーンが大豊作でした。細断型ロールペーラーを利用して、嗜好性の高いコーンサイレージを通年で給与できる体制にしており、牛群の状態も安定しております。このように毎年徐々に変わっていく第一牧場です。近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

第68回岡山県畜産共進会 未經産の部チャンピオン



カヤベ セイエラ ブラックストーン ソル

第29回中国地区B&W 4部チャンピオン



カヤベ ケネディ バーンズ コリー



今年度から「農場(圃場)」という部署が新設され、池田主任が農場配属となりましたが、日々の管理作業は昨年と同じ4名(芦田場長、池田主任、村田技師、山田技師)で行っています。怪我や事故等に気をつけて1年を過ごしたいものです。

乳量・乳質

昨年度の平均搾乳頭数は83頭で、平均生乳生産量は1日で1654kgでしたが、暑熱の影響からか乳房炎が多発し、乳量・乳質の低下が夏季を過ぎても引きずってしまいました。今年度は換気扇の増設や細霧装置の設置など暑熱対策に力を入れ、乳量・乳質の維持および体細胞数9万以下を目標に取り組んでいきたいと考えています。

牧草・草地

昨年度は天候に恵まれ、質の良い1番草ロールを収穫することができました。今年度も引き続き

良質のロールを収穫できるように励んでいきたいと思えます。

受精卵移植

昨年度は卒業生の皆様からジャージー種の海外受精卵5卵を購入していただき、内3卵を受精させることができました。雌子牛の誕生を心より待ち望んでいましたが、残念ながら3頭とも雄という結果に終わってしまいました。今回はこのような結果になってしまいました。今後も優良雌牛獲得にご協力いただければ幸いです。

牛舎

老朽化が進んでいたスタンションを改築しました。設置するにあたり、スタンションの上部を飼槽側に少し傾けることにより牛の肩にかかる負担を軽減する方式を採りました。今後もしずつ牛舎の改築を進め、カウコンフォートの向上に努めていきます。

最後になりましたが、蒜山にお越しの際はぜひ第二牧場にもお立ち寄りください。

酪大ニュース



**デーリイマンに
掲載されました！**

酪農専門誌
「デーリイマン」
2014年新春
特大号の巻頭に
本校が掲載され
ました。



**七年連続乳質優秀表彰
されました！**

おかやま酪農業協
同組合の通常総会に
おいて、七年連続乳
質優秀牧場として表
彰されました。これ
を励みに、今後とも
乳質維持に職員・学
生が一丸となって取
り組みます。



**農場HACCP推進農場に
指定されました！**

酪農の教育現場とし
て、生産物の安全や品質
の管理にポイントをお
いた確固たる指導体制
の構築に向け、農場H
A C C P の認定取得に取
り組んでいます。これに
先立ち、3月28日に農場
H A C C P 推進農場の
指定を受けました。



学生が頑張りました！

2013年度全国農
業大学校等プロジェク
ト発表会で48期生の古
和愛さんが「ジャージー
種に適した初産受胎月
齢の模索」で日本農業新
聞賞を受賞しました。



第7回全農学生「酪農
の夢」コンクールで49期
生の竹中彩香さんが優
秀賞を受賞しました。
(竹中さんの作品は全農
ホームページでご覧頂
けます。)



職員紹介

校長 山田義和
 副校長 岸戸武士
(総務課長兼務)

総務課

係長 有富英美

教務課

教務課長 関哲生
(第一牧場長兼務)

技師

高見奈々
 ◎技師 金谷真澄
 臨時職員 法花千恵美
 臨時職員 谷口育子
 臨時職員 小椋麗子
 臨時職員 西田都

第一牧場

技師 新宮由子
 臨時職員 樋口照夫

第二牧場

技師長 芦田草太
 技師 村田崇浩
 技師 山田祐季

農場(圃場)

○場長 長綱則之
 ○主任 池田良弘

○内部異動者
 ◎新職員

新職員

ごあいさつ

教務課 技師 かなだに 金谷 真澄

岡山県出身の岡山県育ちで、麻布大学を卒業して獣医師になりました。身近には牛がおらず、大学で習うまでは幼い頃蒜山に連れてきてもらった印象から、ジャージー牛は全国で一般的に飼われている牛だと思っていたようなぼんやりな私ですが、しっかり『牛飼い』になるべく、学生さんに負けないよう頑張っていますので、どうぞよろしく願います。



学生寮の整備に伴う寄附のお願い

記

本校学生寮は、共同生活を通じた協調性の醸成や優れた人格形成を図ることを目的として昭和51年に男子寮及び女子寮を整備しましたが、建築から40年近くを経過し老朽化が著しく維持管理等の問題が生じるとともに、近年の女子学生の増加に収容が対応できない他、1室2名の部屋割りでは必ずしもプライバシーに配慮した住環境となっておらず、学生からも改善を求める声が高いことから、昨今の生活環境にマッチした近代的な新学生寮を整備することとしました。

そこで、本校同窓会会員の皆様からのご支援を賜りたく、寄附金をお願いすることとなりました。上記主旨にご賛同いただけます場合は下記のとおりご協力の程よろしく願います。



1. 募金の目的
 新学生寮(40部屋)の整備
 総工費1億5千万円(予定)

2. 目標額
 1000万円

3. 募金の期間
 平成27年3月31日までにお振り込みをお願いします。

4. 募金の額
 1口 5000円
 ※口数は任意です。

5. 寄附金の振込方法
 同封しました専用の振込取扱票(振込通知書)に必要な事項をご記入のうえ、郵便局でお振込をお願いします。

6. 寄附金の税法上の取扱い
 当公益財団への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

7. 個人情報の取扱い
 ご寄附により取得した個人情報につきましては、関係する法令規則に基づき厳正に管理します。

CHUGOKU SHIKOKU COLLEGE OF DAIRY FARMING

平成
27年度

学生募集

■推薦入試

受付期間:平成26年9月1日~10月10日

試験日:平成26年10月21日(本校会場)
10月22日(岡山会場)

■一般1次募集

受付期間:平成26年11月4日~11月28日

試験日:平成26年12月12日

■一般2次募集

受付期間:平成27年1月16日~2月20日

試験日:平成27年3月6日

牛たちとのふれあい、
仲間との楽しい時間。
大自然の中、一生に残る
2年間を過ごしてみませんか？

平成26年
オープンキャンパス

第1回予定日
7月24^(木)日~25^(金)日

第2回予定日
8月28^(木)日~29^(金)日

2年間で酪農経営力を
身につけます!

酪農に必要な資格が
取得できます!

奨学金の制度も
あります!

公益財団法人

中国四国酪農大学校

SEARCH!

中国四国酪農大学校

GO!

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632 TEL (0867) 66-3651 FAX (0867) 66-3652